

海藻、再生エネルギー、洋上都市。デザインの視点から考える海との共存
Coexistence with the ocean from the perspective of design

AXIS

特集 うみと。

Feature

WORLD'S
DESIGN
MAGAZINE

THE
POTENTIAL
OF THE
OCEAN

10

October 2022 | vol. 219

From chairs to buildings by Patrick Seguin

「椅子から建築まで」。
パトリック・セガンと八木保が
ジャン・プルーヴェを語る。

Jean Prouvé as described and Tamotsu Yagi



。 20世紀の建築や工業デザインに大きな影響を与えた建築家で家具デザイナー、エンジニアであるジャン・プルーヴェ。その展覧会が今、東京都現代美術館で開催されている。

ジャン・プルーヴェ展の企画者で、早くからプルーヴェの価値を認め、コレクターでもあるパトリック・セガンと八木 保のふたり。ギャラリストとデザイナーという異なる立場から、ジャン・プルーヴェの功績と魅力について語り合った。

文／青野尚子
Text by Naoko Aono

写真／菅原孝司
Photos by Koji Sugawara

*"Métropole" house (unique prototype, parts),
Laurence and Patrick Seguin collection*
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 C3924

ブルーヴェに寄せる特別な思い

— ブルーヴェ作品との出会いについて教えてください。

パトリック・セガン 1987年か88年にコンパクトなテーブルと椅子を購入したのが最初だったと思います。そのときに抱いた印象はとても現代的な、ミニマルアートのような感じでした。

八木 保 僕はその頃サンフランシスコに住んでいたのですが、ブルーヴェの作品を初めて見たのはパリだったと思います。一目見てそれまで見たことのない形、素材、色の使い方に惹かれました。でも当時は誰の作品かということもまだわからなくて、パリからサンフランシスコに戻って「パリでこんな家具を見たんだけど」と言っても誰も知らない。そこで世界の情報の中心地であるニューヨークなら、と思って探したらやっと軒取り扱っているところがあると教えてもらえ、最初はそのところから買いました。そのうちに知り合いの伝手でパリからニューヨークに来ていたセガンさんを紹介してもらったんです。

— おふたりはブルーヴェ本人に会われたことはありますか。

セガン 残念ながらいいんです。でも彼は20世紀を代表する人物であり、天才的なクリエイターだと思います。家具、建築の両方を手がけていますが、彼の活動は単なる家具職人や建築家、エンジニアといった枠にとどまらない。それがブルーヴェの特徴であり、独特の作品を生み出す原動力となっていると思います。

彼が生まれ育った環境はとてもクリエイティブで知性に溢れるものでした。父のヴィクトール・ブルーヴェは画家で、ゴッドファーザー(洗礼親)はエミール・ガレです。彼が生まれ育ったフランス東部の町ナンシーはガレをはじめとするアール・ヌーヴォーで有名です。もちろんブルーヴェのデザインはアール・ヌーヴォーとは異なるものですが、近代工業とデザインをどのように融合させるのか、その実験が盛んに行われていた場所であったことは間違いありません。

八木 僕も本人に会ったことはありませんが、ブルーヴェが今のようによく知られるようになったきっかけのひとつに、90年代にセガンさんが編集した作品集があります。ブルーヴェのデザインの良さをきちんとまとめて、世界に情報発信した。良いデザインはたとえ何十年経ったとしても、わかる人にはわかるんだと思います。

工業技術を応用し、形態と機能を一致させる

— ブルーヴェのデザインの魅力はどのようなところにあると思われますか。

セガン ブルーヴェがいちばん最初に学んだのは鉄の加工でした。1929年に4mもの長さがあるプレス機を購入するんです。アルミや鋼を曲げ加工し、溶接する機械です。そのときにブルーヴェの父が「1輪の花をイメージしなさい」と言った。「花はたわむけれど折れない。でも太い木は力をかけると折れてしまう。花の茎には空洞があるからだ。鉄や鋼も折って空洞をつくれれば、どんなに強い板よりも強靱なものになる」と言ったそうです。実際にブルーヴェの建築を叩いてみると、柱などが空洞になっているのがわかります。

ブルーヴェにとって家具をつくるのも建築をつくるのも違いはありませんでした。例えば No.512テーブルとル・マン市にある建築物の底は同じ形をしています。テーブルが巨大になったのがこの底なんです。彼はまた飛行機や自動車などに使われる、さまざまな工業技術

を応用しています。彼にとって重要なのは見た目のデザインではなく、そういった技術を使って形態と機能を一致させることなのです。後ろの脚が三角形になった椅子は、こういったフォルム＝ファンクションの考え方からつくられています。

八木 スチールで家具をつくる場合、たいていは空洞にせずムクにしますよね。そうすると重くて運べなくなってしまうんです。空洞ならその分軽くなる。また椅子は後ろにもたれることで壊れることが多い。でもセガンさんがおっしゃったブルーヴェの椅子は、後ろの脚の座面を支えるところが三角形の頂点になっているから強く壊れない。今、50年ぐらい前の椅子で残っているのはブルーヴェのものぐらいでしょう。強いから残っているんです。

セガン 彼の家具が軽いのはもちろん、F8×8 BCC 組立式住宅のように分解・組み立てが可能な家のパーツもとても軽量です。人がひとりでも持ち運ぶことができます。彼の家の多くは社会情勢の変化や戦争などによって家を失ったり、困っている人のためのものでした。また組み立て式の家のほとんどは1日で完成するようにつくられています。例えば3つのチームが3台のトラックで資材を運んでくれば、夕方には3家族の家が完成するのです。

八木 今回僕のコレクションから出品している長さ6mのテーブルも3mずつに解体できるんです。僕のオフィスではこの上にガラスの天板を載せて使っています。6階建てのビルの外壁に取り付けられた日除ルーヴァーも羽根をすべて外すことができます。引っ越すときも簡単に持ち運びができて便利です。ブルーヴェは戦争が始まって鉄が不足すると木を使う、といった工夫をしています。デザインには見えて美しい、機能的であるということの他にこういった社会性も大切だと思っています。

セガン 今回の展覧会ではブルーヴェの言葉が壁に掲示されています。そのなかに「土地に痕跡を残さない建築をつくりたい」というフレーズがあります。解体・組み立てができる家なら自然を傷つけることなく移動することができる。今でこそ私たちは盛んに環境問題やエコロジーといったことを口にしますが、彼は半世紀以上前にこの言葉を残している、その先見性には驚かされます。

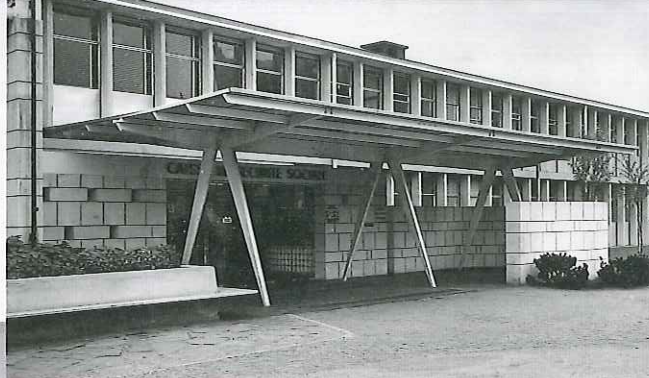
八木 建物を使う人がいなくなっても朽ちてしまう前に解体してコンテナで運び、別の場所で組み立てて使うことができる。確かにエコロジカルだと思います。

あるだけで美しく、本当にリラックスできる椅子

— ご自宅でもブルーヴェの家具を使っていますか。

セガン 南仏にジャン・ヌーヴェルに設計してもらった家があるんですが、家具はすべてブルーヴェです。ブルーヴェの椅子はたとえ私の家の地下室といった素っ気ない空間に置いて美しく見える。何か条件が整っていなければ作品の良さは理解できないといったことはなくて、そこにあるだけで美しいんです。

八木 展覧会で実物を見ていただければ、カタログや写真で見るとは違うことがわかってもらえると思います。今回は展覧会の準備のため、いろいろな作品がコンテナで届きそれを開けると、その迫力に負けそうになりました。僕はブルーヴェ以外にもさまざまなものをコレクションしていますが、そのなかにはメンテナンスが大変なもの、埃がついたら困るから飾れないものもある(笑)。でもブルーヴェの家具ははげた塗装を塗り直さなくても魅力的なんです。普通はそこから傷



Jean Prouvé, "Cafétéria" No. 512 table, a.k.a. "Compas" table, variant 1953 and awning for the Sécurité Sociale du Mans, France, 1952. © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo 2022 C3955

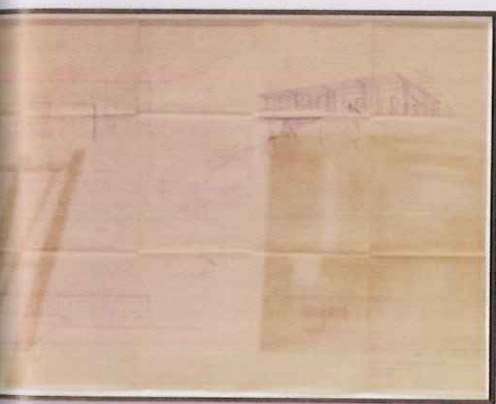
んできてしまうのですが、そういったことがない。自分で使っていて、いつも本当にリラックスできます。

— 今回の展覧会でとくに見てほしいところはありますか。

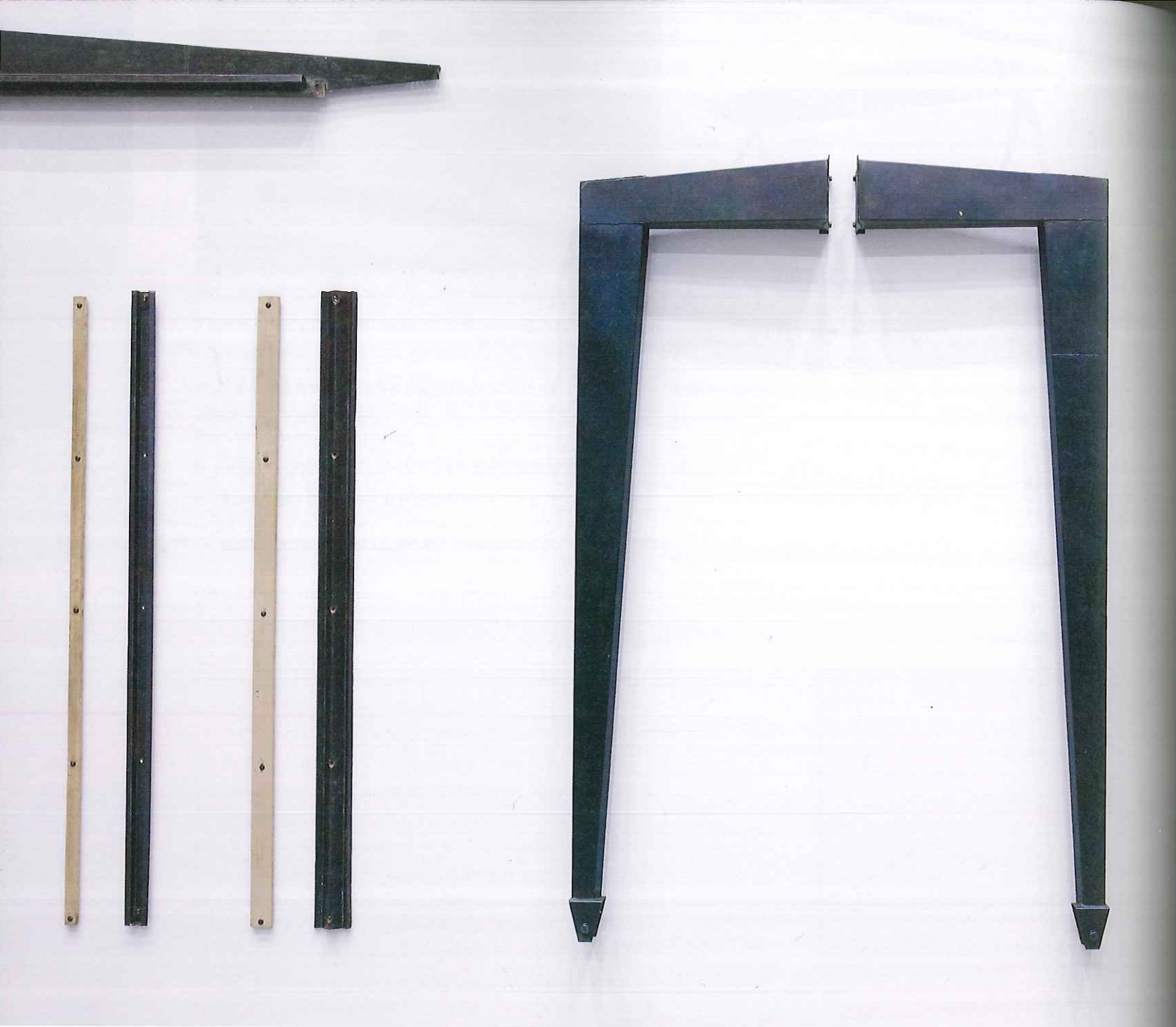
セガン 彼のアイコン的な作品だけでなく、写真やデッサン、手紙、色の選び方の資料まで、鑑賞者がプルーヴェを知る手がかりになるよう

にしました。またプルーヴェの作品はそれ自体が教育的であり、いろいろなことが伝わるようにつくられています。専門家でなくても使い方や特徴が一目で理解できるのです。

八木 彼は小学校を設計したら、子どものための勉強机と椅子までデザインしています。子どもの教育は本だけではなく環境からだ、というのです。そういったところをぜひじっくり見ていただきたいと思います。📍



"Guèridon Cafétéria" demountable table No.300, Yusaku Maezawa collection, and "Cafétéria" No.300 chair, Laurence and Patrick Seguin collection. [Cafétéria des Arts et Métiers, Cité internationale universitaire, Paris, France] 1950.



6x6 demountable house (parts) 1944.



パトリック・セガン／ギャラリーオーナー 1954年フランス・モンペリエ生まれ。89年にパリ11区シャロンヌ通りに、ギャラリー・パトリックセガンをオープン。その後2000年にタランディエ通りのジャン・ヌーヴェルが改装した倉庫に移転。パトリックとロランス・セガンは、ジャン・ブルーヴェやシャルロット・ベリアンの国際展を数多く開催。17年にはその功績が認められ、「芸術文化勲章シュヴァリエ」をジャック・ラング元文化大臣から授与される。

Patrick Seguin is a gallery owner born in Montpellier, France in 1954. He founded the Galerie Patrick on Rue de Charonne in Paris' 11th arrondissement in 1989, then moved in 2000, on Rue des Taillandiers in a former warehouse re-architected by Jean Nouvel. Patrick and Laurence Seguin held many international exhibitions of such artists as Jean Prouvé and Charlotte Perriand. His achievements being recognized, Patrick Seguin received the Chevalier de l'Ordre des Arts et des Lettres from Jack Lang, former Minister of Culture, in 2017.

やぎ・たもつ／アートディレクター。1949年兵庫県神戸市生まれ。84年サンフランシスコのアパレルメーカー、エスプリのアートディレクター就任。91年 Tamotsu Yagi Design をサンフランシスコに設立。2000年、世界初のアップルストアのコンセプトデザインを手がけ、店舗デザインのアートディレクションを担った。ジャン・ブルーヴェ展ではギャラリー・パトリック・セガンと共同企画を手がけるとともに、広報物もデザインしている。

Tamotsu Yagi is an art director born in Kobe City, Hyogo Prefecture in 1949. He assumed the position of art director of the apparel maker Esprit in San Francisco in 1984, and established Tamotsu Yagi Design in 1991 in San Francisco. He was in charge of Apple's first concept design in 2000, and was also in charge of art direction of its store design thereafter. For the Jean Prouvé: Constructive Imagination exhibition, Tamotsu Yagi worked with Galerie Patrick Seguin and also designed the PR materials.



Jean Prouvé was an architect, furniture designer, and an engineer who had a tremendous influence on 20th century architecture and industrial design as well as in other areas. An exhibition titled *Jean Prouvé: Constructive Imagination* is currently being held at the Museum of Contemporary Art Tokyo. Patrick Seguin and Tamotsu Yagi who co-curated and designed this exhibition have been collectors of his work as they recognized his talent early on his career. They discussed Jean Prouvé's achievements and appeal from their respective standpoints as a gallery owner and a designer.

The special sentiment for Jean Prouvé

Could you tell us about your encounter with Prouvé's work?

Patrick Seguin I believe the first time was when I bought a Compas table and chairs set in 1987 or 1988. The impression I got at the time was that it was something like very contemporary minimal art.

Tamotsu Yagi Although I was living in San Francisco at the time, I believe the first time I saw Prouvé's work was in Paris. I was drawn at first glance by the forms, materials, and use of colors that I had never seen previously. At the time, however, I didn't know whose work they were at all, so when I returned to San Francisco and told people about what I saw in Paris, nobody knew about it. I then thought somebody would know about it in New York, the center of global information, and I finally found one place that handled it, so I bought his works from that place at first. Later, through contacts, I was finally introduced to Mr. Seguin.

Have either of you ever met Jean Prouvé in person?

Seguin I'm afraid not. Nevertheless, I think he is one of the figures who represents the 20th century and a genius creator. While he handled both furniture and architecture, his activities were not limited merely within the framework of furniture artists, architects and engineers. That is characteristic of Prouvé, and also the source of motivation that created the unique works.

The environment he grew up in was very creative and intellectual. His father Victor Prouvé was a painter and his godfather was Charles Martin Émile Gallé. Nancy, where he was born and brought up, is famous for Art Nouveau as represented by Gallé. Of course, Prouvé's design is different from Art Nouveau, but there's no doubt it was a place where experiments in how to fuse design with modern industry were conducted vigorously.

Yagi I never had a chance to meet him either, but there's an anthology of his works edited by Seguin in the 1990s that led Prouvé's works to become known widely today. It adequately summarized the excellence of Prouvé's design and disseminated it throughout the world. Those who understand good design will know it no matter how many decades old a piece is.

Matching form and function by applying industrial technology

What aspects of Prouvé's design attract you?

Seguin The first skill Prouvé learned was processing steel. He purchased a large, four-meter-long press in 1929. At the time, his father told him to "Imagine a flower. The flower bends, but does not break. A thick piece of lumber, however, breaks if you apply force. That's because the flower stem is hollow." If you actually knock on the wall of Prouvé's building, you can tell such parts as the pillars are hollow inside.

For Prouvé, there was no difference between making a piece of furniture and building a piece of architecture. An awning of a building in Le Man City, France, for example, has the same form as his Cafétéria No. 512 table. The awning is a giant version of the table. What is important for him is not design in its appearance, but to match function and form using industrial technology. The chair with its hind legs in triangular forms was made through this approach where form = function.

Yagi When steel is used to make a piece of furniture, it is usually not made hollow, but solid. This makes it very heavy and not easy to move. If it's hollow, however, it will be lighter by that amount. Moreover, a chair often breaks when the sitter leans back. Prouvé's chair mentioned by Seguin, however, is durable and unbreakable because the part of the hind legs that supports the seat is the apex of a triangle. Among chairs made around 50 years ago, very few remain today except those made by Prouvé.

Seguin Not only his furniture, but also parts of buildings that can be

disassembled and reassembled like the F 8x8 BCC House are also very light. Each part can be carried by a single person. Many of his houses were made for people who lost their own homes and were in distress due to changes in social conditions or war. Moreover, most of his Demountable Houses were designed so that they could be assembled completely in a day. If three teams, for example, transport the parts in three trucks, houses for three families will be completed by that evening.

Yagi The six-meter-long table that is displayed this time from my collection can also be split into two three-meter-long parts. I use it in my office with a glass tabletop over it. All the slats of the sunshutter louver mounted on the exterior of the building can also be removed. It's convenient as you can carry them around easily when moving. Prouvé was also flexible, as when steel was in short supply due to the war, he used wood. Other than being pleasant in appearance and functional, I believe such concerns for social conditions are also important in design.

Seguin In the exhibition this time, Some of Prouvé's words are displayed on the wall. Among them was a phrase "I would like an architecture that leaves no trace on the landscape." If the house can be dismantled and reassembled, it can be moved without harming nature. We've finally come to frequently mention environmental issues and ecology these days, but Prouvé used those words over half a century ago. I'm amazed by his foresight.

A chair that is beautiful simply by being there and also provides relaxation

Do you use Prouvé's furniture at home too?

Seguin I have a house designed by Jean Nouvel in Southern France, and all of its furniture is by Prouvé. His chair looks beautiful even in a barren space like the basement of my house. It's beautiful simply by being there.

Yagi I think you'll see the difference from the catalog and photos if you visit the exhibition and see the real things in person. During the preparation for this exhibition, various works arrived in containers, and when we opened them, I was awed by their power. I collect various things other than Prouvé as well, but some of them require a lot of maintenance and some can not be displayed as I would be in trouble if they got dusty (laughs). Prouvé's furniture, however, is appealing even if I don't apply a new coat of varnish. I can truly feel relaxed when I use his furniture.

Are there any aspects in particular you'd like the visitors to see at this exhibition?

Seguin We arranged it so that the visitors will have some clues to what kind of person Prouvé was, including not only his iconic works but also photographs, sketches, letters, and even reference materials regarding how he chose colors. Even if you're not a specialist, you'll understand at a glance how a piece is used and its characteristics.

Yagi When he designed an elementary school, he even designed desks and chairs for the children. He said that was because children's education comes not only from books but also their environment. I'd like people to see such aspects of him closely.

Jean Prouvé and PIERRE JEANNERET
F 8x8 BCC house 1942
Yusaku Maezawa collection



From chairs to buildings
Jean Prouvé as described by Patrick Seguin and Tamotsu Yagi